

20世紀の時代に刻印を打った職業人のすぐれた倫理運動であるといわれています。「超我の奉仕」、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」がロータリー思想の基盤にしてロータリアンは精進していたので、1929年の世界的大不況においてロータリアンは誰も倒産していない。商工会議所を通じて倒産した人達の再建に手を貸すことができたといわれています。如何にロータリーが打ち立てた理念が重要であるかがお分かりできたと思います。

「奉仕と親睦を通じ楽しいロータリーを」が今日のテーマですが、親睦も大別すると精神的な向上を伴う親睦と、刹那的なお付き合いの親睦とに分けることができます。後者は前者に到る切っ掛けになる場合が多くありますが、そのみに終わってはロータリーの勤める親睦とは程遠いものになってしまいます。そこからの真の親睦に入っていくことが大切になります。相和するうちにお互いの持つ人間性の良いところを吸収し、感化し、感化されるような関係になっていくのがロータリーの云う親睦であります。

このような親睦になるには原則があります。ロータリーの会員は横一線の平等であることです。特に会員の個々の関係はすべて対等であることに注目して頂きたいと思います。つまり親分・子分とか、地位の高・低とか、名誉の有・無とか、ロータリー歴に関係なく、すべからくロータリアン同士は1対1の関係ですべて対等＝イーブンであることです。

この対等の関係を保ち話し合うことから紡ぎだされる対話は人間性向上において素晴らしい効果を発揮します。ロータリーはこのような場と対話の機会を与えています。

上からの目線はご法度であり、同じ目線で話し合う親睦を交わしているうちに自然に湧き出るように何か良いことをしようと機運が出てまいります。「よしやろうではないかと」知恵を絞った奉仕活動が実現してまいります。このような奉仕は地域社会のニーズを捉えた奉仕活動となるのではないのでしょうか。

ロータリーでは親睦と奉仕活動それぞれが単独で存在しているように見えるが、両者はからみ合って存在しており関連性が高いのです。人のため、社会のお役に立つという「超我の奉仕」を掲げるロータリーは他との違いがここにあります。特に対話から生まれる人間成長を自覚するところに本当の楽しさを覚えます。この楽しさは無限であり、これで良いということはありません。精進すればするほどロータリーから沢山の恩恵（おくりもの）が自然に得られるのです。

この親睦・奉仕に加えて、高潔性・多様性・リーダーシップなどの価値観を、2007年にロータリーの中核的価値観として世界中のロータリアンに示しました。ロータリアンはこの5つの価値観を念頭におくことを奨励しております。この中核的価値観を私たちはロータリアンが備えていなければならない価値観として大事に育み、新会員にロータリアンの遺伝子として伝えていかなければならないものです。

ロータリーの中核的価値観

奉仕 Service 親睦 Fellowship 高潔性 Integrity 多様性 Diversity Leadership
高潔性（品格の向上）；与えられた任務を誠心誠意全うすることから滲み出るもので、品格が向上する。

多様性；世に多くの主義・主張があるが、それを排除するのではなく互いに容認し、新しい段階に前進する。

リーダーシップ；指導性ばかりでなく、勇気をもって率先して行動していく心（人間性）を養う

この5つの中核的価値観を養い世界理解、親善、平和を推進しなければならないと思います。また対話の大切さもお考えな頂ければ幸いです。

ありがとうございました。

国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2138回 例会 2017年1月17日(火)

- 国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム
- 第2790地区ガバナー 青木 貞雄
- 第12分区ガバナー補佐 小倉純夫
- 松戸北ロータリークラブ会長 森谷 充伯
- 松戸北ロータリークラブ幹事 瀧上 啓太
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 松戸市根木内117-1「一幸・松戸根木内店」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイム101
- TEL/FAX- 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail- www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

WEEKLY REPORT

< 2138回：例会プログラム >

- 12:30 点鐘 森谷充伯会長
ロータリーソング斉唱
【♪我らの生業】
- 12:33 お客様紹介 平田洋一会長エレクト
- 12:35 会食
- 13:00 例会再開
会長挨拶・報告 森谷充伯会長
幹事報告 瀧上啓太幹事
- 13:05 卓話「奉仕と親睦を通じ楽しいロータリー」
地区研修リーダー 白鳥政孝様
- 13:25 【委員会報告】
■社会奉仕委員会 社会奉仕基金発表 高崎卓哉委員長
■ニコニコ委員会 本日のニコニコ発表 中原光男委員
- 13:30 点鐘 森谷充伯会長

< 会長挨拶・報告：森谷充伯会長 >

皆様 こんにちは
 本日は、白鳥PGをお迎えして「渡辺研修リーダー」主催のクラブ研修を予定しています。新年早々「白鳥PG」におかれましては、遠路当クラブのために貴重なお時間を賜り有難うございます。我がクラブの特徴を簡潔明瞭にお伝えしますと会員個々が限られた時間で卓話やカンファレンスを通して少しでも何かを会得したいと思う前向きな会員の集まりです。

また、白鳥PGは「2006-07及び2007-08」2期2年にわたり、我々が進む方向を明確な言葉で指し示し導いていただきました。私自身も、2007-08年度（小菅・長島年度）の「ガバナー公式訪問」において、野村会員と共に「白鳥ガバナーとの懇談会でCLP」についてご指導を賜りました事を記憶しています。当時のクラブ概要は会員数も瞬間的に「40名」を切りましたが、年度末には「42名」の会員数となり会員増強成果があがった年度でした。本年度も「40名超」を目指し活動しています。その様な背景から本日の講演テーマであります「奉仕と親睦を通して楽しいロータリー」から、更なる良質な会員増強につながるヒントを賜りたく思います。”白鳥PG”後程、ご指導をお願い申し上げます。

尚、先週の理事会報告で漏れがありました。RYLAの開催について青少年奉仕委員会より「2名の参加：2017.2.25-26」を実施いたします。予算は、@15,000×参加者+ロータリアンで計45,000円の拠出になります。その他、重要事項として繰返しご報告申し上げます。「細則改訂WGより改訂案及び例会場移転の議案」を提出いたします。規定通り、2週間後の例会時に決議させていただきたいと思っております。

さて、今月度は「職業奉仕月間」で、
 ①クラブが職業奉仕の理念を日々、実践することを強調するための月間である。
 ②当月中に推奨されるクラブ活動には、地区行事でのボランティアの表彰、ロータリー親睦活動への参加の推進、職業奉仕活動またはプロジェクトの実施、未充填の職業分類に焦点を当てた会員増強の推進などが含まれる。とあります。

職業奉仕委員会「小澤委員長・高橋修副委員長・三村委員」の当番月となります。その事を受けまして、職業奉仕委員会では色々と思いを凝らして地区委員長との調整を図っている事をご報告申し上げます。”職業奉仕委員会の皆様には、宜しく申し上げます”

WEEKLY REPORT

< 幹事報告：瀧上啓太幹事 >

1. 後期地区分担金 ￥484,446円 } 承認済分（地区分担金）
 米山普通寄付後期 ￥76,000円 }
 松戸市社会福祉協議会 ￥10,000円 } 承認済分（協賛金）
 日本語スピーチコンテスト ￥10,000円 }
2. 先般のRC100周年記念シンポジウム協賛のドキュメントを回覧
 25回外国人日本語スピーチコンテスト協賛の ”
 社協だより・ハイライト米山202号 回覧

< 卓話：地区研修リーダー 白鳥政孝様 >

「奉仕と親睦を通じ楽しいロータリー」



ロータリーの創立者であるポールハリスは1868年(明治元年)に誕生しました。同年に米山梅吉(東京ロータリークラブの初代会長、文豪の夏目漱石、俳諧の正岡子規などがいます。

24歳 アイオワ大学卒業後5年間の放浪の旅に出てセールスマンや教師、舞台俳優や家畜運搬船の火夫などをしながら旅費を工面しつつアメリカ国内やイギリスに渡り、いろいろな体験から世の中の実態を直視することができたのです。29歳にして活気あるシカゴ市に弁護士業を開業したのですが、悪徳商法がはびこるシカゴ市では打ち明けられる仲間がいなく淋しい日々を過ごしていました。そこでポールハリスは何人かの小規模経営者に相談して会合を持ちました。それは1905年1月23日でした。ロータリークラブの誕生となります。

その会合は仲間内の取引を促進する相互扶助が目的でありました。取引するからには相手との交流(親睦)がなければならぬことから親睦を目的としたのであります。ポールハリスは同業者の集まりでは本音を喋らないが、異業種の人とは話が弾むことを知っていたので、会員は1業種1名と限定したのであります。職業分類は最初からありました。クラブ内の取引を詳細に記録し、例会で発表しては相互扶助を推進していたのであります。

弁士のドナルドカーターに入会を誘ったとき、「自分達の利益のみを追求する閉鎖的な団体であっては長続きしない。社会に役立つような団体でなければならない」と言われたことから親睦と相互扶助に社会に役立つ奉仕活動を目的に加えました。ロータリーの初めての社会奉仕としてシカゴ市内に2基の公衆トイレを設置したのであります。

ロータリーの目的に社会奉仕の項目が加わると、全米にロータリークラブが広がってまいりました。ここで問題が起こったのです。社会奉仕をしなくとも親睦と職業に対する姿勢を学び合い相互扶助だけで良いのではないかと、いやそうでない社会奉仕こそが本流であるべきだと二つの派ができてきました。理論派と実践派の対立です。それは激しい論争でありました。

1923年のモンリオールで行われた第2回ロータリー全米連合会大会で“ロータリーに関する一般協定23-34が決議”されました。理論派と実践派の主張を取り入れて両派の論争に終止符が打たれたのであります。この全文は歴史上のドキュメントとしてロータリー章典に永久に保存されています。簡単に言いますと「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり。それは「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである」が「それは実践しなければならない。」としてロータリーの理念・哲学に基づいて奉仕活動しなければならない。ロータリーはロータリーの思想の基本としたのであります。

理念を学び、実践しては学び、また実践する。このあくなき繰り返しがロータリー運動であります。このくりかえしの中にお互いの人間性の向上が図られて、人と成りが形成されます。その人間性が家庭や会社および職場や地域社会に良い影響をもたらします。これがロータリーの奉仕活動の原形であります。

1905年から1930年に至る25年間、ロータリーとは何か、ロータリーの存在価値は何か、理念は何かを真剣にロータリアンは議論し合い思想を確立したのであります。ロータリーとは人類が